



明治から昭和初期にかけて、阿賀野川を上り下りする帆かけ舟がありました。中新田地先から新潟へ砂利を運んでいたもので、下りの時は流れに乗り、上りの時は白い帆をいっぱいにはらんで走る光景は、新潟の風物詩の一つでした。かつては砂利の大きな産業であった砂利採取について、さきごろ聞き取り調査を行いましたのでご紹介します。

花形産業だった砂利採取

舟川業であった。その後、万代橋・県庁の建設、鉄道の敷設、建物の鉄筋コンクリート化が進んだことなどによって、新潟の需要が急速に増え、新潟などよそからの業者も入り、砂利産業として発展した。

●昭和十年頃、萩島の通船組合長・栗原平作氏が砂利採取船を開発し、輸送にも発動機船を導入して大きく事業が進展した。

●昭和十四年頃、船頭の若衆は、年雇いで百円(當時、農家の年雇いは三十円から四十円)、小遣月一円、着るものと食へものは雇用者もちであった。

●終戦後、新潟飛行場の拡張工事に、大量の砂利が使用された。その後、昭和三十年十月一日の新潟大火をきっかけに砂利需要が増大し、運搬船も四〇〇五〇の大型の鋼船になり、また大型トラックによる陸上輸送も盛んになった。

●三十年代後半の最盛期には、運搬船百数十隻余、従業員約三百名、年間約三百万立方メートルであった。昭和三十五年、日本海側で初めて生コンが導入され、これにも多くの砂利が使用された。

●昭和四十年頃になると中新田のあたりには砂利が少なくなり、採石場所も次第に上流へと移った。ダムの増設で石が流れて来なくなつたことも一因らしい。東京オリンピック期の砂利の大量需要が去るのと、砂利採取の規制が始まつた。その後、も国は資源保護の姿勢を強め、新潟の砂利採取は衰退の一途をたどっている。現在、運搬船は四十隻である。

●新潟の砂利産業は、近年、さびれる一方です。しかし、この聞き取り調査でもわかるように、往時は花形産業の一つだったのです。現在も道路の舗装や、上越新幹線の一部をまかなうなど、近代化へ貢献していることに変わりはありません。

なお、この話は、萩島の栗原富義氏、阿賀野川砂利船の和泉道氏、栗原秀浩氏からお聞きしました。



松くい虫

庭松まで侵略

予防方法のお願い
合わせは農林課へ

猛威を振るい、市の木の松を全滅の危機に追い込んでいる松くい虫ですが、これまで是有効な予防策がなく、被害木を切り倒して消毒し、被害への感染を防ぐのが精一杯でした。しかし、民官あげての研究が進み、予防薬もいくつが開発されてきています。そこで市でも、今年これらの予防薬をテストし、これ以上被害が広がらないよう手だてを講じることにしています。

最近では秋葉山など丘陵地帯の松だけでなく、平地の民家の庭松にまで被害木が目立ってきています。自宅の庭松が心配だという方は、予防法などを農林課農産係(☎4121-1内線二九五)へお問い合わせください。ただし、問い合わせる方は、お住まいの市防衛課へお申し込みください。三月中に行わないと効果がありません。お問い合わせはお早めに。

寄付

篤志に感謝します

◆社会福祉事業に	
匿名希望	一〇、〇〇〇円
匿名希望	一〇、〇〇〇円
匿名希望	一〇、〇〇〇円
匿名希望	一〇、〇〇〇円
二瓶美和子さん(中野)	一五、〇〇〇円
◆児童福祉事業に	
高橋盟子さん(車場)	三、六〇〇円
馬場高栄さん(善道町)	一〇、〇〇〇円
匿名希望(二十八回目)	二、〇〇〇円
ある男児(七十一回目)	一、〇〇〇円
◆交通児童救済事業に	
横野七きさん(本町)	二一〇、〇〇〇円
◆秋葉学園に	
観音寺実行者一同(新町)	一四、四三〇円
◆新関中学校生徒会	一〇、〇〇〇円
◆老人福祉事業に	
匿名希望(百十九回目)	二、〇〇〇円

お買物、ご用命は市内で

★贈答品に、新しい主役登場★

にいつ フリアン
Osakaya's Friends

フリアンはアーモンドとバターの味ー
1箱(12ヶ入) 1,000円・2箱入 2,100円

オースアカヤ
新津市本町2 TEL 2-0112

…何? オールド
いや、にいつオースアカヤの
フリアン!!

